

製品名: Lck BP-1 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab13253**

研究使用のみ

概要

| | |
|--------|--|
| 説明 | ウサギポリクローナル抗体 |
| 宿主 | うさぎ |
| 応用 | WB,IHC |
| 反応性 | ヒト、ラット、マウス |
| 標識 | 非共役 |
| 修飾 | 未修正 |
| アイソタイプ | IgG |
| クローン性 | ポリクローナル |
| 形態 | 液体 |
| 濃度 | 1mg/ml |
| 保存 | アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。 |
| 輸送 | 氷袋 |
| バッファー | 50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。 |
| 精製 | アフィニティー精製 |

応用

| | |
|------|--------------------------------|
| 希釈倍率 | WB 1:500-1:2000,IHC 1:50-1:300 |
| 分子量 | 54kDa |

抗原情報

| | |
|--------------|---|
| 遺伝子名 | HCLS1 |
| 別名 | HCLS1; HS1; Hematopoietic lineage cell-specific protein; Hematopoietic cell-specific LYN substrate 1; LckBP1; p75 |
| 遺伝子 ID | 3059.0 |
| SwissProt ID | P14317 |
| 免疫原 | Lck BP-1 由来の合成ペプチド。アミノ酸範囲: 340-420 |

背景

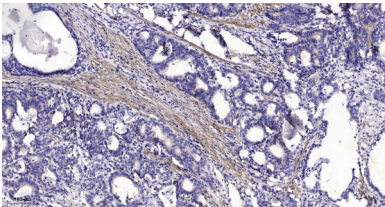
発生段階: 骨髄球系および赤血球系分化の初期段階で発現する。機能: 抗原受容体共役チロシンキナーゼの基質。リンパ球系細胞に

おけるクローン増殖と欠失の両方に対する抗原受容体シグナル伝達において役割を果たす。遺伝子発現の調節にも関与している可能性がある。、PTM: LYNによってリン酸化され、B細胞表面IgMの架橋後速やかにリン酸化される。、類似性: 1つのSH3ドメインを含む。、類似性: 4つのコルタクチンリピートを含む。、サブユニット: LCKのSH2およびSH3ドメインと結合する。LCK SH3ドメインへの結合は恒常的に起こるが、LCK SH2ドメインへの結合はTCR刺激時にのみ起こる。LYNでも同様の結合パターンが観察されたが、FYNでは見られなかった。FYNでは、TCR刺激時にFYN SH2領域が結合するが、TCR刺激にかかわらずFYN SH3領域は結合しない。HAX1のC末端領域に結合して直接関連します。HS1BP3と相互作用します。、組織特異性:造血起源の組織および細胞でのみ発現します。、発生段階:骨髄球系および赤血球系分化の初期段階で発現します。、機能:抗原受容体共役チロシンキナーゼの基質です。リンパ球系細胞におけるクローン増殖および欠失の両方に対する抗原受容体シグナル伝達において役割を果たします。遺伝子発現の調節にも関与している可能性があります。、PTM:B細胞表面IgMの架橋後、LYNによってリン酸化されます。、類似性:1つのSH3ドメインを含みます。、類似性:4つのコルタクチンリピートを含みます。、サブユニット:LCKのSH2およびSH3ドメインに関連します。LCK SH3ドメインへの結合は恒常的に起こりますが、LCK SH2ドメインへの結合はTCR刺激によってのみ起こります。LYNでも同様の結合パターンが観察されましたが、FYNでは見られませんでした。FYNのSH2領域はTCR刺激によって会合しますが、FYNのSH3領域はTCR刺激にかかわらず会合しません。HAX1のC末端領域に結合して直接会合します。HS1BP3と相互作用します。、組織特異性:造血系由来の組織および細胞でのみ発現します。、

研究分野

タイトジャンクション;病原性大腸菌感染症;

画像データ



パラフィン包埋ヒト胃腺癌の免疫組織化学分析。1、抗体を1:200に希釈（4°Cで一晩）。2、抗原賦活化にはTris-EDTA、pH9.0を使用。3、二次抗体を1:200に希釈（室温、45分）。